

活動報告

団体名	被災地を写真でつなぐ実行委員会
活動名	学生の連携によるコミュニティ復興のための支援活動
活動期間	2019/10/21～2020/9/30
活動の成果	<p>本事業における参加校 27校（内訳は、以下の通り）</p> <p>【県内】 中学校 3校 高等学校・予備校 5校 大学・専門学校 7校</p> <p>【県外】 高等学校 2校 大学 10校</p> <p>（１）被災地域における住民の方々への支援継続、ケア型の支援の実施 災害救援活動が一区切りした2020年2月。社会福祉協議会による災害ボランティアセンターが閉鎖され、残ニーズ（家屋復旧や農地復旧）や新たなニーズ（住宅に戻ることを決めた家屋の清掃や引越し等）への対応が必要となった。参加した学生ボランティアと必要な作業を行うとともに、住民の方と話すことも大切にし住民の方の気持ちに寄り添うことも1つの大切な目的として活動を行った</p> <p>（２）中学生～大学生への災害ボランティア参加促進 災害ボランティアセンターでの活動を行う中で、学生の災害ボランティアも多く参加していることが見受けられたが、災害ボランティアセンターの作業はできないけど、何かしたいという気持ちを持った学生も見られ、当団体として、それらの学生が何かしらの災害復興支援活動に参加する機会を創ることができた。</p> <p>（３）利用学生によるプロジェクト支援 発災後、学生間で学生ができる災害ボランティアを考える高大生災害情報共有会議のサポートを行った。九州北部豪雨の被災地支援の際、学生ができたこと等を紹介しつつ、これから求められることについて話し合った。</p> <p>（４）防災教育・SDGs教育の実践 本事業では、ベース利用学生に対して、災害ボランティア以外にも防災について考える機会として、段ボールベッドや簡易トイレの組み立て方法・その使い方や、非常食の作り方、備蓄の方法の解説、被災地域のガイド等を行った。</p> <p>（５）地元の学校とのネットワーク構築、今後の災害救援・防災活動への基盤 これらの活動から、少しずつではあるが、地元の学校との繋がりを創ることができ、ボランティア活動への定期的な参加をいただいている。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>今回の事業により、地域に住む学生が災害ボランティアに参加するとともに、防災について考える機会を創ることができました。長野県における被災地支援はこれからも続きますが、それとともに、災害に備える「防災」への取り組みや枠組みの構築を行っていきたいと考えています。今回の活動にご支援いただき誠にありがとうございました。</p>

（活動のようす）

